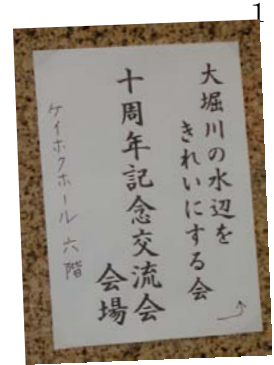


設立十周年記念交流会記録



☆ 時：2007年4月15日（日）午後1時半～5時半

☆ 所：京北ホール

☆ 参加者

会員：18名

お客様：44名

■ 木村会長挨拶

十周年を迎えて会としての喜び、当会を支えてくれた団体・個人への謝辞、本日ご参加頂いた方々への御礼の言葉があり、更なる発展を期したい旨の挨拶があった。

■ 講演「これからの地域環境活動に望むこと」

江戸川大学社会学部教授 恵 小百合様

現場からの視点、即ちアリの眼、トリの眼、イルカの眼で、環境や都市を観る眼を磨いていくことが大切です。

「川は川だけで成立していない」ことを、しっかりと認識し、源から下流まで周辺の森林保全等にも気を配らねばなりません。

川に関心の強い層がどれだけ係わりを強められるかが決め手です。

環境問題を地球規模で考えると共に、身近な地域でできる市民、企業、行政の連携が重要です。

皆さんの市民活動団体の環境、地域社会への役割に期待します。

■ パネル討論会

パネラー：

・江戸川大学教授	恵 小百合様
・柏市市民活動センター	松清 智洋様
・マジミとガシャモクを復活する会	竹中真理子様
・大津川をきれいにする会	中村 明様
・さかいね 下田の森自然公園友の会	高橋昌代様
・当会から	青木保雄
・司会は当会から	中野一字

上に挙げた七氏がひな壇に上り、先ず出身母体の自己紹介から始まった。

立ち上げの経緯／活動内容と目標／金の工面／現在の悩み／等々多方面に亘ったが、詰まるところ会員と予算の獲得に苦勞する話が焦点になった。

いくつか拾ってみると・・・

【会員獲得】

- ・あらゆる場面で会の活動を紹介し、勧誘していく。
- ・例えば一般向けに「米作り講座」、「そば作り講座」を開き、畑作り⇒種蒔き⇒草取り⇒刈取り⇒収穫⇒餅搗き・ソバ打ちと年に数回は参加して頂く機会があるので、その間に仲間になって頂く。
- ・会員に＜入会動機アンケート＞したところ、
[勧誘ちらしを見て]、[会に人に勧められて]、[広報誌など見て] というのが各1/3だった。

【予算の獲得】

- ・助成金を受けるには書類提出が付いて回るので敬遠されがちだが、視点を変えて会の活動を報せ、啓発するチャンスだと前向きに受け取った方がいい。情報公開があれば助成獲得に有利に働く。
- ・市に対しての助成申請はよく聞くが、県に対してもっと働きかけていいんじゃないか。
- ・企業にも応援を要請してはどうか。

尚、＜マシジミとガシャモクを復活する会＞、＜さかいね 下田の森自然公園友の会＞、＜かしわ環境ステーション＞は活動紹介、会員募集のチラシ、募金箱など持ち込んでのPRはサスガだなあと思わせた。



塚田栄さん描く大堀川。春夏秋冬の4作品を展示

この司会の中野さん。この方がまた大変なマネージャー、発言が途切れるとすかさず、「私は、かつて助成金申請の為のプレゼンをしましたが、訴えるところが足りなかったのか却下されました。その時の審査員のお一人が横にお座りの恵先生です。それ以来アピールの大切さを痛感しました」等と当意即妙に補って座を盛り上げておられた。

■＜大堀川の会＞活動発表

プレゼンターのベテラン青木保雄さんより会の紹介がいつにも増して滑らかに始まった。スクリーンに映る画像とコンテンツは青木さんによる構成・シナリオをもとに、当会の若手（と云っても50半ばなれど）の堤田敏夫さんのパソコン技術支援により、苦勞の末作り上げた作品ときているから青木さんも力が入る。

- ・ 大堀川とは
- ・ 会のメイン活動と会員活動
- ・ ゴミの推移
- ・ 水質検査
- ・ 広報／啓発活動
- ・ 今後の課題

などを取り上げ、「当会といえば、語れば喧々譁々、動けばねじり鉢巻に胴長でゴミと取っ組む武闘派のイメージがついて廻るが云々」というコメント、言いえて納得。「ヤサシイところもある」と思うんだがナァとは記者のひとりごと。

■ 懇親会

パネル討論会が終わるやいなや会場は、あっという間にパーティ会場に変身。四つのテーブルは鉢花を真ん中に山海の珍味と飲み物が所狭しと並び、それを取り囲んで、先ず第一回大堀川の大掃除から参加頂いている「美しい手賀沼を守る市民の連合会（美手連）会長」田口様のご挨拶。美手連の“クリーンデーは雨にたたられているのに、大堀川の会のそれはいつもハレ”などウラミ節も交えた軽妙なお挨拶の後ご自身のご発声でカンパ〜イ。そこからは老々男女いや老若男女いりまみれてのおしゃべり大会。

暫くして奥村伊佐夫さんの司会でスピーチが続く。

〔柏市環境保全課長〕伊原優様の「先程どなたかからあった“柏市にはオカネがいっぱいある”という話は聞いていませんが、、、」などやんわりと柏市のホンネ、

大堀川の会 OB で今は〔牧場跡地の会〕の郡司千代子様からは“兎に角この会は延々沸々と議論を闘わし、そのうち何処からともなくアルコールが顔を出し、それからはガラッと元気な発言が続く云々”などエピソードが紹介された。この後もあちこちからスピーチが続いたが、殆ど記者には聞き取れなかったというか忘れてしまってすいません。ただ環境に強い関心を持つ柏と近隣の人々が一同に会したのは実に有意義でした。

閉会挨拶はこの会の創設者である寺尾直宏さん。“十年も持つとは思はなかったが続いてくれて嬉しい”と喜びの内に同氏の大手ヅで幕となった。

二次会は〔大津川の会〕の方々も加わり、いつもよりチト高級な料理屋での、互いにキチョーナ交流のひとつときとなりました。

〔記録〕 恵先生の講演までは中野一宇さん、その後は河井



「素晴らしいHPの作者はどなた？」
の質問に答える堤田敏夫さん